

## 統合ルール の 操作

統合ルールを使用するには、次の役職が必要です。

- 目録管理者

統合ルールは、2つのレコードを統合する方法についての指示を提供します。2つのレコードを統合する場合、プライマリレコードは、統合されるすべての情報を含むレコードです。セカンダリレコードは、プライマリレコードに統合される情報を含むレコードです。統合ルールは、プライマリレコードの情報を削除するか、セカンダリレコードからプライマリレコードに情報をコピーします。統合ルールはセカンダリレコードに影響を与えません。通常は削除されますが、セカンダリレコードは統合後に残る場合があります。

MDエディタを使用すると、目録者は統合ルールを作成してMARC 21レコードに適用したり、作成済みの統合ルールを適用したりすることができます。ルールに使用する構文は[統合ルール構文と例](#)に記載されています。また、詳細についてはトレーニングセクションの[統合ルール](#)を参照してください。

## プライマリレコード

レコードを統合するために可能なシナリオがいくつかあります。各シナリオに使用されるプライマリレコードは次のとおりです。

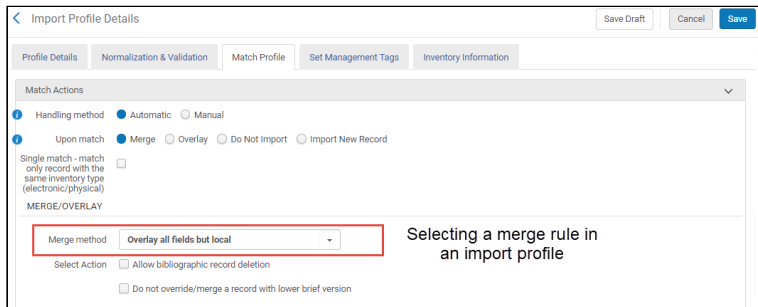
統合のためのプライマリレコード

シナリオ	プライマリレコード
プロファイルを使用してレコードをインポートする ( <a href="#">プロファイルを使用したレコードのインポート</a> を参照)	Alma内の既存レコード
OCLC Connexionからのレコードのインポート ( <a href="#">OCLC Connexionからのレコードのインポート</a> を参照)	Alma内の既存レコード
2つの既存レコードを統合する ( <a href="#">書誌レコードを統合</a> を参照)	MDE (最初に開いた) の左側のペインのレコード
外部リソースを使用した目録のコピー ( <a href="#">外部リソースを検索する</a> を参照)	外部リソース

### Note

プロファイルのインポートと目録のコピー ([外部リソースを検索する](#) など) のプライマリレコードは本質的に相対する関係にあるため、インポートプロファイル用に記述された統合ルールは、目録のコピーには機能しません (逆も同様)。インポートプロファイルルール用と目録のコピー用に、2組の統合ルールが必要です。各タイプのルール例は、

[プロファイルのインポートと目録のコピーのルール例](#)にあります。



## Note

Almaで統合ルールを使用する場合、名前ではなくルールの説明が【統合方法】ドロップダウンリストと【統合ルーティンを選択】ドロップダウンリストに表示されます（[レコードアクション > レコードの統合と目録の統合](#)において）。

## 基本的な統合ルール

以下は基本的な統合ルールです。基本的なルールは無条件に適用することも、プライマリレコードの条件の対象に合わせて適用することもできます。ルールが適用される順序は重要です。

基本的な統合ルール

統合ルール	例	説明
削除	remove MARC."035"	このフィールドを持つすべての行をプライマリレコードから削除します。
追加	add MARC."035"	このフィールドを持つすべての行をセカンダリレコードからプライマリレコードに追加します。
置換	replace MARC."505"	<p>このフィールドを持つすべての行をプライマリレコードから削除してから、このフィールドを持つすべての行をセカンダリレコードからプライマリレコードに追加します。</p> <p>置換は、削除の後に追加を配置した場合とまったく同じ結果を生成しますが、「if exists」句を使用する際に、セカンダリレコードに指定されたフィールドがない場合、プライマリレコード内のフィールドは削除されません。次の例を参照してください。</p> <pre>replace MARC."505"</pre> <p>この場合は、常にプライマリレコードから505を削除します。セカンダリレコードに505が存在する場合、プライマリレコードにもこの505が含まれます。セカンダリレコードに505が存在しない場合、プライマリレコードには505が含まれません。</p> <pre>replace MARC."505" if exists</pre>

統合ルール	例	説明
		<p>この場合、セカンダリレコードに505が存在する場合にのみ、プライマリレコードから505を削除します。セカンダリレコードに505が存在する場合、プライマリレコードにはこの505が含まれます。セカンダリレコードに505が存在しない場合、プライマリレコードは元の505を保持します。</p> <hr/> <p><b>Note</b></p> <p>このロジックは、置換アクションで MARC."505" などのフィールドを指定した場合にのみTRUEであることに注意してください。以下の置換アクションフォーマットを使用する場合、Almaは置換ルールを「IF EXISTS」が書き込まれたものとして扱います。たとえば、Almaプライマリレコードに260フィールドがあり、受け入れるセカンダリレコードに264フィールドがあり、replace MARC.XXXを使用している場合、Almaは260フィールドを保持し、統合処理中に("if exists"が書き込まれているかのように)264を追加します。</p> <hr/> <p>さらに詳しい情報は、<a href="#">統合ルールのシンタックス</a>の表を参照してください。</p>

## 統合ルールの作成

このセクションで説明する手順に従い、統合ルールを作成します。

ネットワークゾーンコンソーシアムメンバーの場合、ユーザーは新しいルールをローカルに保存するか、ネットワーク機関に保存するかを制御できます。この選択を行うには、[レコード]または[テンプレート]領域を開き、[新規]>[配置オプション]に移動します。この選択はユーザーごとに行われることに注意してください。

### 統合ルールを作成する方法

1. MDエディタページ（[\[リソース > 目録 > メタデータエディタを開く\]](#)）で、[ルール]タブを選択します。統合ルールフォルダが表示されます。
2. [新規]>[マージ]を選択して、[マージルールのプロパティ]ダイアログボックスにマージルールのプロパティを入力します。

The screenshot shows a 'New Rule' dialog box with the following fields and options:

- Format:** Merge
- Name:** My Merge rule
- Description:** My Merge rule
- Access Level:** Private (selected), Shared
- Buttons:** Cancel, Save

3. ルールをプライベートとして作成するか共有として作成するかを指定します。これにより、表示ルールがどのフォルダに保存されるかが決まります。（プロパティを**変更**して）ルールを共有フォルダに移動する前に、ルールをプライベートフォルダに保存し、最初にテストすることをお勧めします。後からAlmaで統合ルールを使用する場合、プライベート統合ルールは[統合方法]ドロップダウンリストに表示されません。コミュニティフォルダーには、コピーすることで独自のルールを作成できる統合ルールがあります。
4. ダイアログで **保存** を選択します。MDデータの編集ペインが表示されます。
5. ルールの詳細を入力します。
  - 。ご自身の統合ルールに必要な情報を入力します。使用する構文の詳細については、[統合ルールの構文と例](#)を参照してください。
6. **[保存]**を選択してください。保存された統合ルールが [ルール] タブに表示されます。保存されたマージルールは、編集、削除、複製（新しいマージルールを作成するため）、共有を目的としてコミュニティゾーンに投稿することが可能です（詳細については、[コミュニティゾーンへの投稿 - 正規化、統合、および表示ルール](#)を参照）。保存済みの統合ルールのプロパティを**変更**するオプションもあります。

---

## Note

- 。正規化ルールとは異なり、統合ルールをプレビューすることはできません。

---

## 統合ルールの構文と例

統合ルールは特定の構文に従います。統合ルールの例の一覧については、以下の例、または [Alma統合ルールの例](#)を参照してください。

---

## Note

ルールに複数のブール演算子を含めることはできますが、多数のブール演算子を選択すると、パフォーマンスが低下する可能性があります。したがって、ブール演算子は各ルールあたり200個以下に収める必要があります。

---

## プロフィールのインポートと目録のコピーのルール例

以下は、次のようなシナリオで使用できる統合ルールの例です。このシナリオでは、基本的なメタデータを含むプライマリレコードがAlmaにあり、そのほとんどをセカンダリレコードのメタデータに置き換えます。ただし次のフィールドでは、プライマリレコードのメタデータを保持する必要があります：001、019、035、59X、9XX。

インポートプロフィールには、次のような統合ルールを使用します。

```
ルール「ローカルデータおよび一致するキー以外のフィールドを置換る」
when
merge
then
replace MARC.XXX excluding "001,019,035,59X,9XX"
end
```

目録のコピーには、次のような統合ルールを使用します ([外部検索リソースを設定する](#)を参照) :

```

ルール「ローカルデータおよび一致するキー以外のフィールドを置換る」
when
merge
then
replace MARC."001"
replace MARC."035"
replace MARC."019"
replace MARC."59"X
replace MARC."9"XX
end

```

上記の両方の例で、セカンダリレコードにフィールドが存在しない場合、プライマリレコードのフィールドは削除されないことに注意してください。プライマリレコードのフィールドが常に削除されるようにする場合は、ルールの「置換」ではなく、「削除」および「追加」のルールを使用します。詳細については、[基本的な統合ルール](#) テーブルの「置換」を参照してください。

## ルールの構文

条件とアクションは、MARCレコード、フィールド（1つ以上）、インジケータ、サブフィールド（1つ以上）、フィールド/サブフィールドの内容などのレコード要素に適用されます。

条件はプライマリレコードの要素に適用されます。レコード要素にアクションを適用するには、要素が以下の表の構文と一致する必要があります。

統合ルールの構文

表現	意味
add MARC."{tag}"	{tag}で指定されたフィールドのコンテンツを追加します。 次の例では、950フィールドのコンテンツを追加します： add MARC."950"
add MARC."{tag}"("{ind1}","{ind2}")	{tag}で指定されたフィールドのコンテンツと、明記されたインジケータを追加します。 次の例では、インジケータ0および1を使用して、950フィールドのコンテンツを追加します。 add MARC."950"("0","1")
add MARC."{TAG}"("{ind1}","{ind2}") if does not exist	フィールドとインジケータがプライマリレコードにまだ存在しない場合にのみ、{tag}で指定されたフィールドを追加します。プライマリレコードにフィールドがなく、セカンダリレコードに同じタグとインジケータを持つ2つのフィールドがある場合、両方のフィールドが追加されます。 次の統合シナリオの例では、プライマリレコードにタグとインジケータが既に存在するため、プライマリレコードは変更されません。

表現	意味
	<p>構文：add MARC."600"("0","0") if does not exists</p> <p>プライマリレコード：600 00 \$a history</p> <p>セカンダリレコード：600 00 \$a history of Israel</p>
<pre>add MARC."{TAG}" excluding {ind1} "{comma separated values}" excluding {ind2} "{comma separated values}" excluding subfield ("{subfield}","{subfield value}")</pre>	<p>{tag}で指定されたフィールドのすべての固有値を追加します。ただし、最初のインジケータの特定の値、2番目のインジケータの特定の値、またはサブフィールドの1つに特定の値がある場合を除きます。フィールドを除外するには、すべての条件を満たす必要があります。それぞれの間に暗黙的にANDが存在します。3つの条件は必須ではありません。1つまたは2つだけが存在する可能性があります。</p> <p>たとえば、追加するセカンダリレコード#1には固有の655フィールド値はなく、追加するセカンダリレコード#2には固有の655フィールド値があります。以下の例の構文は、2つの条件のみを使用することに注意してください。</p> <p>構文：add MARC."655" excluding second indicator "7" excluding subfield ("2","local")</p> <p>セカンダリレコード#1：655_7 \$a Art stories.\$2 local</p> <p>セカンダリレコード#2：655_7 \$a Irish stories.\$2 fast</p>
<pre>add MARC."{tag}" if does not exists</pre>	<p>{tag}で指定されたフィールドのコンテンツを、このフィールドが存在しない場合に追加します。</p> <p>たとえば、次の例は、950フィールドがまだ存在しない場合に追加します。</p> <p>add MARC."950" if does not exists</p>
<pre>add MARC."{prefix}"X</pre>	<p>接頭語{prefix}が付いたフィールドにコンテンツを追加します。</p> <p>次の例では、920～929の全フィールドのコンテンツが追加されます。</p> <p>add MARC."92"X</p>
<pre>add MARC."{prefix}"XX</pre>	<p>接頭語{prefix}が付いたフィールドにコンテンツを追加します。</p> <p>次の例では、900～999の全フィールドのコンテンツが追加されます。</p> <p>add MARC."9"XX</p>
<pre>add MARC."{prefix}"X excluding "{list}"</pre>	<p>指定されたフィールドとサブフィールドを除き、接頭語{prefix}が付いたフィールドのコンテンツを追加します。</p> <p>次の例では、990～991のコンテンツを除く、990～999の全フィールドのコンテンツが追加されます。</p> <p>add MARC."99"X excluding "990,991"</p>
<pre>add MARC."{prefix}"XX excluding "{list}"</pre>	<p>指定されたフィールドとサブフィールドを除き、接頭語{prefix}が付いたフィールドのコンテンツを追加します。</p>

表現	意味
	<p>次の例では、950と951を除く、900～999の全フィールドのコンテンツが追加されます：</p> <pre>add MARC."9"XX excluding "950,951"</pre>
<pre>add MARC."{tag}" when MARC."{condtag}"."{condsf}" contains "{condstring}"</pre>	<p>指定されたフィールド/サブフィールドに特定の文字列が含まれる場合、{tag}で指定されたフィールドを追加します。</p> <p>次の例では、250.aフィールドに"history"というテキストが含まれている場合にのみ950タグが追加されます。</p> <pre>add MARC."950" when MARC."250"."a" contains "history"</pre>
<pre>remove MARC."{prefix}"X</pre>	<p>接頭語{prefix}が付いたフィールドを削除します。</p> <p>次の例では、920～929の全フィールドが削除されます。</p> <pre>remove MARC."92"X</pre>
<pre>remove MARC."{prefix}"XX</pre>	<p>接頭語{prefix}が付いたフィールドを削除します。</p> <p>次の例では、900～999の全フィールドが削除されます。</p> <pre>remove MARC."9"XX</pre>
<pre>remove MARC."{tag}"</pre>	<p>{tag}で指定されたフィールドを削除します。</p> <p>次の例では、950フィールドを削除します。</p> <pre>remove MARC."950"</pre>
<pre>remove MARC."{TAG}" excluding "{excluded field}" ("{ind1}", "{ind2}")</pre>	<p>指定されたフィールドとインジケータのリストを除き、{tag}で指定されたフィールドを削除します。</p> <p>次の例では、650フィールドを削除します。ただし、650フィールドのフィールドのうち、ファースト・インジケータ1、ファースト・インジケータ0およびセカンド・インジケータ1、セカンド・インジケータ2、インジケータなしのフィールドは除きます：</p> <pre>remove MARC."650" excluding "650"("1", " ") remove MARC."650" excluding "650"("0","1") remove MARC."650" excluding "650"(" ","2") remove MARC."650" excluding "650"(" "," ")</pre>
<pre>remove MARC."{TAG}" if not exists subfield "{comma separated values}"</pre>	<p>{comma separated values}で指定された（1つまたは複数の）サブフィールドが存在しない場合、プライマリレコードから{tag}で指定されたフィールドを削除します。複数のサブフィールドが指定されている場合、条件を満たすためにすべてのサブフィールドが存在する/存在しない必要があります。</p> <p>たとえば、サブフィールド5が存在しない場合、プライマリレコードである次の700フィールドが削除されます。</p>

表現	意味
	<p>構文: remove MARC."700" if not exists subfield "5"</p> <p>プライマリレコード #1: 700 1_ \$a Burgess, Anne.</p>
<p>remove MARC."{TAG}" if exists subfield "{comma separated values}"</p>	<p>{comma separated values}で指定された(1つまたは複数の)サブフィールドが存在する場合、{tag}で指定されたフィールドをプライマリレコードから削除します。複数のサブフィールドが指定されている場合、条件を満たすためにすべてのサブフィールドが存在する/存在しない必要があります。</p> <p>たとえば、サブフィールド5が存在する場合、プライマリレコードである次の700フィールドが削除されます。</p> <p>構文: remove MARC."700" if exists subfield "5"</p> <p>プライマリレコード: 700 1_ \$a Jefferson, Thomas, \$d 1743-1826, \$e former owner.\$ 5MH</p>
<p>remove MARC."{prefix}"X excluding "{list}"</p>	<p>指定されたフィールドのリストを除き、接頭語{prefix}が付いたフィールドを削除します</p> <p>次の例では、990と991を除く、990～999のすべてのフィールドが削除されます。</p> <p>remove MARC."99"X excluding "990,991"</p>
<p>remove MARC."{prefix}"XX excluding "{list}"</p>	<p>指定されたフィールドのリストを除き、接頭語{prefix}が付いたフィールドを削除します</p> <p>次の例では、950と951を除く900～999のすべてのフィールドが削除されます。</p> <p>remove MARC."9"XX excluding "950,951"</p> <p>次の例では、001、084、773、および980-999を除くすべてのフィールドを削除します。</p> <p>remove MARC."XXX" excluding "001,084,773,98X,99X"</p>
<p>remove MARC."{prefix}"XX excluding "{excluded field}"("{ind1}","{ind2}")</p>	<p>指定されたフィールドとインジケータのリストを除き、接頭語{prefix}が付いたフィールドを削除します。</p> <p>たとえば、以下は6XXフィールドを削除します。ただし、650フィールドのうち、ファースト・インジケータ1、ファースト・インジケータ0、およびセカンド・インジケータ1、セカンド・インジケータ2、インジケータなしのフィールドを除きます。</p> <p>remove MARC."6"XX excluding "650"("1", " ")</p> <p>remove MARC."6"XX excluding "650"("0", "1")</p> <p>remove MARC."6"XX excluding "650"(" ", "2")</p> <p>remove MARC."6"XX excluding "650"(" ", " ")</p>
<p>replace MARC."{tag}" if exists</p>	<p>フィールドがセカンダリレコードに存在する場合にのみ、{tag}で指定されたフィールドのコンテンツを置き換えます。フィールドがセカンダリレコードに存在しない場合、プライマリレコードのフィールドは残ります。</p>

表現	意味
	<p>たとえば、フィールドがセカンダリレコードに存在する場合、次のようにプライマリレコードの950フィールドが置き換えられます</p> <pre>replace MARC."950" if exists</pre>
<pre>replace MARC."{tag}"</pre>	<p>{tag}で指定されたプライマリレコードのフィールドのコンテンツを置き換えます。フィールドがセカンダリレコードに存在しない場合、プライマリレコードには{tag}フィールドが含まれません。</p> <p>たとえば、以下がプライマリレコードで950フィールドを置き換えます：</p> <pre>replace MARC."950"</pre>
<pre>replace MARC."{prefix}"X if exists</pre>	<p>これらのフィールドがセカンダリレコードに存在する場合、{prefix}の接頭語が付いたフィールドのコンテンツを置き換えます。これらのフィールドがセカンダリレコードに存在しない場合、プライマリレコードの{prefix}フィールドは残ります。</p> <p>たとえば、これらのフィールドがセカンダリレコードに存在する場合、プライマリレコードの920～929のすべてのフィールドを置き換えます：</p> <pre>replace MARC."92"X if exists</pre>
<pre>replace MARC."{prefix}"X</pre>	<p>{prefix}の接頭語が付いたプライマリレコードのフィールドのコンテンツを置き換えます。これらのフィールドがセカンダリレコードに存在しない場合、プライマリレコードには{prefix}フィールドが含まれません。</p> <p>たとえば、以下がプライマリレコードで920～929の全フィールドを置き換えます：</p> <pre>replace MARC."92"X</pre>
<pre>replace MARC."{prefix}"XX if exists</pre>	<p>これらのフィールドがセカンダリレコードに存在する場合、{prefix}の接頭語が付いたプライマリレコードのフィールドのコンテンツを置き換えます。これらのフィールドがセカンダリレコードに存在しない場合、プライマリレコードの{prefix}フィールドは残ります。</p> <p>たとえば、これらのフィールドがセカンダリレコードに存在する場合、プライマリレコードの900～999のすべてのフィールドを置き換えます：</p> <pre>replace MARC."9"XX if exists</pre>
<pre>replace MARC."{prefix}"XX</pre>	<p>{prefix}の接頭語が付いたプライマリレコードのフィールドのコンテンツを置き換えます。これらのフィールドがセカンダリレコードに存在しない場合、プライマリレコードには{prefix}フィールドが含まれません。</p> <p>たとえば、以下がプライマリレコードで900～999の全フィールドを置き換えます：</p> <pre>replace MARC."9"XX</pre>
<pre>replace MARC."{prefix}"X excluding "{list}"</pre>	<p>指定されたフィールドを除いて、{prefix}の接頭語が付いたプライマリレコードのフィールドのコンテンツを置き換えます。</p> <p>例えば、以下が990～991のフィールドを除く、プライマリレコードの990～999のすべて</p>

表現	意味
	<p>のフィールドのコンテンツを置き換えます。フィールドがセカンダリレコードに存在しない場合、それらはプライマリレコードに作成されることに注意してください：</p> <pre>replace MARC."99"X excluding "990,991"</pre>
<pre>replace MARC."{prefix}"XX excluding "{list}"</pre>	<p>指定されたフィールドを除いて、{prefix}の接頭語が付いたプライマリレコードのフィールドのコンテンツを置き換えます。</p> <p>例えば、以下が950～951のフィールドを除く、プライマリレコードの900～999のすべてのフィールドのコンテンツを置き換えます。フィールドがセカンダリレコードに存在しない場合、それらはプライマリレコードに作成されることに注意してください：</p> <pre>replace MARC."9"XX excluding "950,951"</pre>
<pre>replace MARC.XXX excluding "{list}"</pre>	<p>指定されたフィールドを除く、すべてのプライマリレコードのMARCフィールドのコンテンツを置き換えます。</p> <p>次の例は、指定されたフィールドを除き、プライマリレコードのすべてのフィールドの内容をセカンダリレコードの内容に置き換えます。フィールドがセカンダリレコードに存在しない場合、それらはプライマリレコードに作成されることに注意してください：</p> <pre>replace MARC.XXX excluding "100,245,9XX,5XX"</pre>
<pre>replace MARC."{prefix}"X excluding MARC."{exclTag}"("{ind1}","{ind2}")</pre>	<p>指定されたフィールドとインジケータを除く、{prefix}の接頭語が付いたプライマリレコードのフィールドのコンテンツを置き換えます。</p> <p>次の例は、セカンダリレコードの995 (0,1) MARCフィールドを除き、プライマリレコード内の990～999のすべてのフィールドのコンテンツを置き換えます。MARCフィールド995 (1,1) が置き換えられていることに注意してください。</p> <p>フィールドがセカンダリレコードに存在しない場合、それらはプライマリレコードで作成されます：</p> <pre>replace MARC."99"X excluding MARC."995"("0","1")</pre>
<pre>replace MARC."{prefix}"XX excluding MARC."{exclTag}"("{ind1}","{ind2}")</pre>	<p>指定されたフィールドとインジケータを除く、{prefix}の接頭語が付いたプライマリレコードのフィールドのコンテンツを置き換えます。</p> <p>次の例は、セカンダリレコードの995 (0,1) MARCフィールドを除き、プライマリレコード内の900～999のすべてのフィールドのコンテンツを置き換えます。MARCフィールド995 (1,1) が置き換えられていることに注意してください。</p> <p>フィールドがセカンダリレコードに存在しない場合、プライマリレコードに作成されます：</p> <pre>replace MARC."9"XX excluding MARC."995"("0","1")</pre>
<pre>replace MARC."{tag}" excluding MARC."{exclTag}"("{ind1}","{ind2}")</pre>	<p>指定されたフィールドとインジケータを除き、{tag}で指定されたプライマリレコードのフィールドを置き換えます。</p> <p>次の例は、995 (0,1) を除き、プライマリレコードの995フィールドの内容をセカンダリレコードの内容に置き換えます。MARCフィールド995 (1,1) が置き換えられていることに注意してください。</p>

表現	意味
	<p>フィールドがセカンダリレコードに存在しない場合、プライマリレコードに作成されます：</p> <pre>replace MARC."995" excluding MARC."995" ("0", "1")</pre>
<pre>replace MARC."{tag}" when MARC."{condtag}"."{condsf}" <b>contains</b> "{text}" excluding MARC."{exclTag}" ("{ind1}", "{ind2}")</pre>	<p>指定された文字列を含むプライマリレコードのフィールドの内容を、指定された文字列を含むセカンダリレコードに置き換えます。セカンダリレコードに指定された文字列を含むフィールドがない場合は、指定された文字列を含むプライマリレコードのフィールドが削除されます。</p> <p>例:</p> <pre>replace MARC."035" when MARC."035"."a" <b>contains</b> "OCoLC" excluding MARC."035" ("9", "9")</pre>
<pre>replace MARC.XXX excluding MARC."{exclTag}" ("{ind1}", "{ind2}")</pre>	<p>指定されたフィールドとインジケータを除く、すべてのプライマリレコードのMARCフィールドのコンテンツを置き換えます。</p> <p>次の例は、995 (0,1) を除き、プライマリレコードのすべてのフィールドの内容をセカンダリレコードの内容に置き換えます。MARCフィールド995 (1,1) が置き換えられていることに注意してください。</p> <p>フィールドがセカンダリレコードに存在しない場合、プライマリレコードに作成されます：</p> <pre>replace MARC.XXX excluding MARC."995" ("0", "1")</pre>
<pre>replace MARC.control."{ctrl}"</pre>	<p>指定されたプライマリレコードのMARCコントロールフィールドを置き換えます。</p> <p>次の例は、プライマリレコードのMARC 008コントロールフィールドの内容を、セカンダリレコードの内容に置き換えます。</p> <p>フィールドが存在しない場合は作成されます。</p> <pre>replace MARC.control."008"</pre>
<pre>replace MARC.control.position."LDR.{starting position, length}"</pre>	<p>プライマリレコードのコントロールフィールド内の特定の位置を置き換えます。これは位置の開始と長さを指定することにより実行できます。</p> <p>次の例は、位置8から始まり2位置の長さのプライマリレコードのコントロールフィールドで指定されているものをセカンダリレコードのコントロールフィールドに置き換えます。</p> <pre>replace MARC.control.position."LDR.{8,2}"</pre>